

九州診療看護師(NP)研究会の設立の経緯と第1回学術集会・総会の報告

九州診療看護師(NP)研究会会長 長崎医療センター 脳神経外科 JNP 本田 和也

はじめに、国は、2025年に向けた医療提供体制の改革の一つに「チーム医療推進」を掲げ、その具体的方策として、看護師の役割拡大を検討してきました。そして、2015年10月より「特定行為に係わる看護師の研修制度(以下、特定行為研修)」がスタートしました。我が国の看護師の業務拡大に関しては、「特定行為研修」の法制化に先だって2008年4月より診療看護師(以下、NP: Nurse Practitioner)の養成教育として、大分県立看護科学大学大学院修士課程においてすでに開始されていました。今では修士課程でNP養成教育を行っている大学院は7大学まで増え、一般社団法人日本NP教育大学院協議会の実施するNP資格試験合格者は全国で249名(平成27年度)存在するまでに至っています。看護師の業務拡大が法制化されたいま、特定行為研修修了者およびNPは今後増えていくことが予測され、それらの臨床での活動、成果が注目されています。長崎県では2014年から年1回、「長崎JNP研究会」を開催してきた経緯があり、この度、長崎医療センターのNPがリーダーシップをとり九州地方のNPやその関係者が一丸となる組織構築を進めてきました。そして、2016年12月1日「九州診療看護師(NP)研究会」の設立にいたりました。

記念すべき九州診療看護師(NP)研究会 第1回学術集会・総会は、2017年2月4日(土)、地域医療研修センター(長崎医療センター敷地内)にて開催いたしました。学術集会のテーマは、患者・家族、医療従事者との「つながり」やこれからNPの役割、成果を

「つくる」「つたえる」といった思いを込め「診療看護師(NP)がつなぐ人と未来」としました。九州地方、遠くは関東地方からNPだけでなく医師、看護師、その他コメディカル含め約90名ご参加いただきました。

特別講演では、米倉正大先生(長崎県病院企業団企業長)に「長崎県における診療看護師(NP)への期待」と題し、留学時(米国)に経験したNPとの関わりや管理者として考えるNPへの思い、課題についてご講演いただきました。また、一般講演では、米城和美先生(長崎県壱岐病院 看護部長)、中道親昭先生(長崎医療センター 救命救急センター長)より管理、指導者の視点からNPに対する評価、展望についてご講演いただきました。また、庄山由美先生(長崎県壱岐病院 NP)、岩崎伊代先生(熊本医療センター NP)からは臨床での実践内容、熊本地震での経験などご講演いただきました。先生方のご講演は学術集会終了後、多くの方々より「大変勉強になった」「NPの活動の実際、役割を知って応援したくなった」「NPがチームにいれば臨床の現場は大きく変わる」など有り難いお言葉をいただきました。私自身も大変興味深い内容ばかりで、大いに勉強させていただきましました。

最後に、NP主体となった研究会、学術集会・総会の運営は全国でも初めての試みであり、至らぬ点が多々あったかと存じますが、多くの方々のご支援・ご協力を賜り、予想以上の大成功をおさめ幕を閉じることができました。この場をかりて心より厚く御礼申し上げます。また、関係者の皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



講演の様子



学術集会・総会の準備・運営にあたった診療看護師(NP)のメンバーとともに(執筆者:右から3番目)